

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL  
教職を目指す学生・卒業生のために

# COMPASS

第 114 号 2016.6.11(土) 発行

関西外国語大学  
教職教育センター

SCET

## 教員採用試験に向けて

教職教育センター 所長 角野茂樹

ハナミズキの白い花が咲く頃スタートした「夜スペシャル」も前半(5/19)が終わり、5/21.22には留学帰国生も加わり学研都市キャンパスの仲間とともに教員採用試験対策セミナー(春季合宿)(学生58名・先輩教員8名・大学教員10名参加)を行いました。総勢76名、セミナーハウスでは熱気と活気に満ち溢れる中、学生たちは自らの進路開拓・夢実現にむけて、教育時事ディスカッション、教職教養、専門教科、集団面接に取り組んできました。

これから、学生たちは教育実習のため其々の中学校・高等学校へ赴き、学習指導・生徒指導・進路指導等の取組に参画し、教職への「夢の途中」を味わい経験することになります。これまで経験したことのない学校現場の教育活動への参画により、使命感を持ち情熱を燃やし、また生徒に向き合い喜びも不安・苦しみも経験して、「夢実現」に向けて自ら進路を拓いていくことになります。成長した姿を見る日が楽しみです。

夜スペシャルの後半は6月21(火・水・木の5限)からスタートします。教育時事問題・教職教養・集団面接対策が中心になります。小学校教員をめざす人、中高等学校教員をめざす人、それぞれの課題に向き合い応援していきます。

最後の最後まで、自己の課題に向き合い、努力し  
学び続ける教師になってくださ

い。Very important game to come. Stay focus.  
Just win.



## 新任の先生方よりメッセージ

4月より本学に着任された先生方がいらっしゃいます。教職に関する科目の授業だけではなく、教育実習委員としての業務も持たれますので、多くの皆さんがお世話になるとおもいます。その先生方から皆さんへメッセージをいただきました。

### 継続は力なり

英語キャリア学部 教授 馬場 勝

小学校5・6年生の時の担任の先生が、「何事も途中であきらめず、続けることが大切だよ。辛抱強く続けていれば、必ず実を結ぶから。」と、事ある毎におっしゃっていました。ある時、筆耕を生業にしていた私の父に「筆で『継続は力なり』という言葉を書いてほしい。」と、依頼されました。それ以降『継続は力なり』は額に入れられ、私たちが卒業するまで教室の黒板上の壁面にずっと飾られていました。

江戸時代の人で、私が尊敬している人に伊能忠敬がいます。彼は1745年に上総の国（現在の千葉県）に生まれ、もともとは酒造業や運送業を営む商人でしたが、50歳の時に家督を息子に譲り、以前から興味があった天文学を学ぶために、江戸に出て勉学をスタートさせました。そして1800年、56歳の時に依頼があり、北海道の測量をスタートしました。以後約17年間、10度にわたる測量計画のもと、日本国内を実測してまわったのです。その間の距離は4万キロを超えるといえますから、地球を1周以上したことになります。また当時のことですから、簡易な測量計で作図していったのですが、出来上がった「大日本沿海輿地全図」（彼の死後3年後に完成）は、科学技術が発達した現在、人工衛星から撮影した日本列島と比べても、北海道と九州の位置のわずかなズレを除けば、ほぼ正確であると言われています。本当に驚くべきことですね。一説によると、当時の平均年齢が約45歳であることを考えると、何が彼の思いを突き動かしたのでしょうか。ただ言えることは、飽くなき信念を持ち続けたことは確かです。

日本の名工と言われる方も、その道一筋に50年、60年歩み続けてきた人たちばかりです。まさしく「継続は力なり」です。

「絶対に先生になる。」今、皆さんが心の中で灯しておられる強い思いを消すことなく、教職の道を確かに歩み続けていかれることを心から願っています。

## 教職をめざす皆さんへ

英語キャリア学部 教授 新坊 昌弘

「私なら、誰一人採用しない！」

これは、教員採用試験対策セミナー（春季合宿）の2日目、模擬集団面接が終った直後に、私の口から出た言葉です。僅か3m、この面接官との距離を皆さんの魅力は伝わって来ませんでした。

他人が答えている間、自分の答えを探す険しい表情。「誰からでも。」と促されても挙手出来ない回答に対する不安。「きっちりしなければ。」「しっかり正しいことを答えなければ。」という思いは緊張を誘発し、皆さんの顔から明るい表情も、覇気も奪い去ってしまいました。（私の顔が怖かったからかも知れませんが・・・。）

前夜、チューターである先輩現任教員からのアドバイスにあれだけ熱心に耳を傾け、メモを取り、質問していた意欲溢れる皆さんが……。模擬面接を終ったときの皆さんの安堵の笑顔が、どれほど魅力的だったことか。

「教員に必要な資質は？」と問われたとき、私はよくこのように答えます。第1に「子どもに向き合い続ける気力と体力」。第2に「明朗快活で寛容であること」。第3が「旺盛な知的好奇心」。日々、授業や教員採用試験の準備に取り組む皆さんの姿を見ていると、この3つの要素はどれも十分備わっていると思います。伝えて欲しいのは、その素のままの皆さんの姿です。気どらない、格好をつけないありのままの姿です。求められているのは、何かに載っている模範解答ではありません。皆さんの心からの叫びです。心から湧き出る言葉です。人間としての魅力です。

大丈夫です。皆さん一人ひとり、十分に魅力をもっています。飾らず、つくらず、一人ひとりの素晴らしい人間性を、自信をもって披露して下さい。

皆さんの多くは、外国語の教員をめざしていることと思いますが、教員という仕事は、まずは「人」を相手にする仕事なのですから。

## 教育実習および教員採用試験に向けての決意

教育実習直前ガイダンスで発表された学生の決意と、教員採用試験への意気込みが届きましたのでご紹介します。教員採用試験を受ける皆さんも、各自、教員採用試験に向けての思いや決意をもう一度、思い出して頂ければと思います。

### 教育実習、教員採用試験に向けて

外国語学部 4年生 森本大貴

こんにちは、英米語学科4年生森本大貴と申します。いよいよ始まる、教育実習に向けて私が大切にしているものと、7月から始まる教員採用試験に対する取り組みと意気込みを述べさせていただきます。

Hello, everyone! I have a question for you. What makes students want to learn? In this question, there is no answer because there are a lot of important things in education, but in my opinion, “curiosity” is very important in education. I looked up to a dictionary. It says desire to learn and know more about something, someone. However, it is difficult to define the meaning of curiosity for education. Curiosity is very basis of education and is a first-step for learning. If students have curiosity about study, they will become independent learners. In fact, curious students not only ask questions to teachers, but also passively seek out answers, so Curiosity is just as important as intelligence in determining how well students do in schools. In the end, curiosity makes learning more effective and enjoyable for students and of course, teachers.

と、いきなり英語で私が教育に対して大切にしていることを述べましたが、皆さんは急に英語が出てきて驚いたと同時に、どんな内容が書かれているのだろうと気になったはずです。それこそが、教育において重要なことだと考えます。関西外大の教職履修者のみなさんならば、文章の中に何度も登場した”curiosity”の意味はわかると思いますが、一応言うならば、“好奇心”という意味です。教育において、児童、生徒が取り組む課題や勉強に何らかの好奇心を持つようになれば、その学習は確実に促進されます。好奇心と教育実習がどのように関連しているのかを三点のポイントに絞って述べます。一つ目が、生徒に授業内容や課題に興味関心を持たせることで、学習を自発的なものにすること。二つ目が、教育実習生である私たちに興味関心を持ってもらうことで、授業外でも生徒たちとコミュニケーションをとり、授業展開をスムーズにしてくれます。三つ目が、生徒たち発信ではなく、私たち自身から彼らに対して興味関心を持つことで、包み込まれ感を生徒たちは感じるからです。以上三点を踏まえて、私は教育実習に臨みたいと思います。みなさんは教育に関して大切にしていることは、何かありますか？是非、考えてみて下さい。

次に、教員採用試験についてです。私は、留学で少し自主ゼミに入るのが遅くなりましたが、途中から参加させてもらい、去年から少しずつですが教員採用試験のための対策をしてきました。その中で、一人で勉強できない英語ディスカッション、討論をしたり、自主ゼミでしかできないこともあり、大変ためになっています。一人の勉強だけでは限界があるし、採用試験に関する情報も少なくなると思います。そのためにも、難しいと言われている現役合格をめざす仲間と一緒に頑張るべきです。教職教養はもちろん、一般教養も難易度が高いですが、教職の仲間との横の繋がりを大切に切磋琢磨し合いながら、教員採用試験に臨みたいと思います。

## 「教育実習、教員採用試験に向けて」

外国語学部 4 年生 松下愛

みなさんこんにちは、英米語学科 4 年生の松下愛と申します。この場を借りて、教育実習と教員採用試験に向けての意気込みを言わせていただきます。

まず教育実習についてです。今 4 年生の方はガイダンスの時に一度お話をさせていただきましたが、初めに大村はまさんの「教えるということ」という本から一部引用して紹介させていただきました。この本の中にこんな一文があります。「一生懸命やりましたけれども、というのはだいたい非常に甘えた言葉だと思います。」この言葉を聞いて何を思われたでしょうか。「一生懸命やりましたけれども」という言葉の後に続くのは「できませんでした」です。教育実習中、私たち学生は教育実習生という立場に甘えて、この言葉を言うってしまう可能性は 0 ではないと思います。私はまだ教員採用試験を受けてもいませんし、免許すら取得していませんが、この言葉を言うことは許されることではないのではないのでしょうか。私はまだプロではありませんが、プロという意識で教育実習に臨みたいと思います。

次に、教員採用試験についてです。私が受けるのは大阪府だけです。去年までの試験の制度が今年度から変更され、英語教育推進がなくなった代わりに、TOEIC や英検などの資格で一定以上の点数を取得していれば加点される制度ができました。多くの外大生はその加点を利用できると思いますし、少しの加点でも有利ではないかと思います。私はこの加点がないので、一次試験の教職教養では満点を取るつもりで勉強しています。現役で合格できる人は少ない、とよく聞きますが私は一発合格を狙っています。しかし、一人で教職教養を勉強するのは正直難しいことだと思います。そんな中、私が今勉強を頑張っているのは教師になりたいという思いともう一つ理由があります。それは自主ゼミの友達存在と、お世話になった先輩存在です。私が所属しているゼミの一人は、神戸に住んでいるのにも関わらず、朝 7 時半にゼミの部屋に来て、夜 8 時まで勉強しています。他には、アメリカと日本の手話ができる人がいたりと周りに影響され、私も頑張らなければと思います。そして、今年の 4 月から教育現場に入り働いている先輩方の現場でのお話を聞き、より一層教師になりたいという思いが強くなりました。先輩方の姿を見ていると教員採用試験に受かるのがゴールではなく、スタートであると実感します。まずそのスタートラインに立てるよう、仲間と高め合いながら教員採用試験に向けて勉強していこうと思います。

## 教員採用試験に向けて

外国語学部 4 年生 村上智香

生徒や保護者に信頼されない教師が増え、そして児童生徒やその家族を取り巻く環境の問題が複雑になってきていることなどにより、教師の仕事がますます重要で難しくなっている今、私が教師になろうと決めたのは 3 回生のときに読んだある本がきっかけでした。教職課程を履修していたものの、進路に迷っていたときのことで、「教育って何なのか、私はごく素朴に、幸せを追求できる人間に育てていくことだと考えています。それも、自分一人だけの幸せでなく、みんなが幸せに生きていける社会をつくっていく。その大きな事業員の一員として自分も参加しながら、自分

の幸せを追求していける人間を育てていくことそれが教育であり、そこで身につけさせたものが学力だ、と考えているんです。」という言葉に大変共感し、感動しました。このような使命が教師にはあるのだと思うと、教師という仕事は本当に素晴らしく、責任重大であると、まだ採用試験さえ受けていないのに身の引き締まる思いがしました。ここでいう「幸せ」、人間が追求すべき「幸福」とは、これは私の考えですが、「縁に紛動されたり、世間の成功に紛動されたりしない、目先のことにとらわれず、一喜一憂しない、動じない心を持っていること、その人の幸せを祈ったり、そのために悩んだりできるような友人や仲間がいること、どんな困難があっても断じて負けず、立ち向かう勇気や希望が心にあること」だと思っています。そのような幸せを追い求め、つかみとることができる人を育てる使命を果たすために私は教師になりたいと決意しました。

まずは7・8月に迎える教員採用試験に向けて自分のやるべきことをやって頑張ろうと思います。現在はいろいろな知識を得るため、またたくさんの方の考え方を知り、自分の考えをつくっていくために本を読むようにしています。専門教科である英語の力をつけるためにはボランティアへの参加や、アルバイトの塾の授業予習を細かくするよう心がけています。またNHKの英語教育番組を見て表現を学び、参考にしたい教え方をいくつか発見しました。大学の授業が終わった後の夜スベや休日の教職のイベントに参加をして、まわりの同級生に刺激を受け、互いに励まし合う日々を送っています。そして、これから採用試験の筆記や面接のためのさらなる勉強に加え、やろうと思っていることは、本を読む量を今の量ではまだまだ足りないのもっと増やすことです。英語力に関しては、ゼミの仲間と英語のディスカッションや模擬授業をし、単語や長文読解に力を入れてもっと自主勉強を頑張ります。教職のイベントやボランティアにもできるだけ多く参加し、意識の高い先輩・後輩に出会っていろいろな考え方、手本にしたい学級づくりや授業をたくさん学び、自分の力にしていきたいです。

「国家の将来は、その国の教育の質で決まる。そして教育の質は一人ひとりの教員の資質で決まる。」と言われていました。日本や世界のこれからを担う人材の育成に携わり、貢献できる教師になるために、教員の人間性について考えることも大切だと思いました。周りの人により印象を与える外見を心がけ、清楚な髪形や爪の長さなどに注意し、丁寧な言葉遣いや元気な挨拶をしようと思います。特に小さい声で自信のなさそうに、あまり笑わず挨拶をしてしまうところが自分にあると言われたので、それを克服します。他にも私には弱点がたくさんあります。少しのことで落ち込んでしまうところ、優柔不断なところ、考えすぎてしまうところ、思いが顔や態度に出やすいところ等です。能力的にも弱い部分がたくさんあるので、自分の短所を克服し、または長所に転じていけるようにします。

教員採用試験に向けての思いや決意を書こうとしたとき、最初はどのように書いていったらいいのかわかりませんでした。文字にすると自分の教職に対する考えやこれからやるべきことがよりはっきりし、モチベーションが上がりました。これらをしっかり心に留め、必ず教員採用試験の合格を勝ち取ることができるよう頑張ります。

## シリーズ⑭「心の窓を少し開いて」

### 【包まれる人間関係】

教師であれば「どの子どもも高い志を抱いて、将来、ひとかどの人間になってほしい」と願う。個々の子どもが成人して「自己実現と社会貢献」ができるようにと願って教育は営まれる。

「人間が志を立てるということは、いわばローソクに火を点ずるようなものです。ローソクは、火を点けられて初めて光を放つものです。同様にまた人間は、その志を立てて初めてその人の進化が現れるのです。」（森 信三：『修身教授録』）

ところで、「抱く」の漢字の中には「包」という字がある。この頃は、ものを買ったらバッグやビニール袋に「入れる」ことがあっても、風呂敷や新聞紙で「包む」ことはほとんど無い。本来、「包む」行為は「大切なものを包む」ことであり、人と人とを「つなぐ」ことを意味する。現代社会は人間関係が希薄になって「入れる」ことばかりで、誰かに優しく「包まれている」実感がない子どもが多くいるのではないか。隣にいる人と会話せずにメールでやり取りする風景が「当たり前」の状況になった。大人が子どもを、親が子を、教師が学生や生徒を、医師が患者を温かく包む人間関係づくりが求められる。積極的に他者を包むことを意識してみる。優しく包んでくれる家庭や学校や職場があれば人は「元気」になる。

### 編集後記——教職教育センターより——

先日、山の中を散歩していると、青々とした紫陽花（アジサイ）に目を奪われました。梅雨のジメジメした嫌な時期でも紫陽花を見ると、心が和みます。

紫陽花の花の色は、土のpH（ペーハー：酸度）によって変わるとのことです。一般に酸性なら青、アルカリ性なら赤になるといわれます。

同じ品種でも、場所により色が異なることがあります。これは、その土壌のpHが影響しているからです。

紫陽花は環境によって、違う色の花を咲かせる。紫陽花を見ると感慨深いものがあります。